最優秀賞（京都府知事賞）

北方領土に学ぶ

大山崎町立大山崎中学校
一年　浅野　陽香

「北方領土問題のこと、どう思う？」
私は父に、唐突な質問をぶつけてみた。
「たぶん、もう日本には戻ってこないよ。相手の立場にたって考えてごらん。」
この問題について全く無知な私に返ってきた言葉は、予想外の後ろ向きな一言でした。
そこで、私はまず北方領土問題のことを理解するために詳しく調べてみることにしました。そこからわかった事実は、江戸時代以降、北方領土はずっと日本固有の領土であるということ。第二次世界大戦後、ソ連に不法占拠されたということ。かつてそこには一万人以上の日本人が住んでいたということ。そして今は、多くのロシア人が暮らしているということ。また、この問題の解決を果たそうと現在に至るまで二十年以上もの間、両国首脳が交渉を続けているということです。これらの事実を知り、私は少しでも早く、北方領土をロシアから取り返さなければいけないと強く思いました。
では、父が言った「相手の立場」とは、一体どういう事なのでしょうか。深く考えてみると二つのことが思い浮かんできました。一つ目は、現在この四島に住む多くのロシア人家族の平和で幸せな暮らしです。そこが日本の領土に戻るということは、かつて日本人が辛い経験をしたのと同じように、彼らの故郷を奪ってしまうのではないかという疑問にたどりつきます。二つ目は、国を動かすロシア政府の人たちの置かれた立場です。北方領土を手放すということは、せっかく手に入れた利権を失ってしまうことになります。国民の信頼を受け持ち、国の利益や人々を守る責任がある彼らにとって、それは決して容易なことではないと思います。
これらの二つの立場から眺めてみると、北方領土問題を解決することの難しさに改めて気づかされています。日本とロシアの国民が、お互いに理解を深め合うだけでは、この問題は解決しません。北方領土の返還を実現できるとすれば、ロシア政府が国民の大多数から了承を得るか、あるいは北方領土に代わる何らかの見返りを示すことが求められると思います。父が初めに言った一言は、もし仮に日本が逆の立場であったとしても、同じ様な道をたどるであろうということを意味していたのかもしれません。
それでも私は、問題解決への希望があることを信じたいです。中国や韓国と争っている尖閣諸島や竹島とは異なり、領土問題の存在を認め合い、互いにとって最良の形で解決を図ろうと努力する両国の姿がそこには感じられるからです。この先どんなに時間がかかろうとも、私たちはこの希望の光を消してしまわないよう、過去に学び、未来につなげていくことが大切です。そのためには、この問題の発端となった戦争の過ちを知り、二度と新たな領土問題を起こさないようにすることが、私たち若い世代に託された役割・責任であるのだと考えます。

最優秀賞（京都市長賞）

世論調査から見た北方領土問題

京都市立伏見中学校
三年　岡嶋良太郎

「北方領土返還要求運動に参加したくない人　五十九・五％」。これは今年の十一月に日本政府が発表した世論調査の結果である。私はこのデータを見て大きなショックを受けた。なぜならば、このデータによれば、日本国民の約六十％が北方領土返還要求運動に拒否反応を示しているからである。これはいったいどうしたことだろう。北方領土の返還を要求することに何か問題があるとでも言うのだろか。私は国民の多くが北方領土返還要求運動に賛同していると確信していた。そして返還を求める国民の強い意思を背景に、政府はロシアとの交渉に臨んでいると理解していた。しかしこのデータを見ると、北方領土の返還を要求することに、国民は興味をもっていないのではないかとさえ思ってしまう。

そこで、次のことを最低限の歴史的事実として確認しておきたい。①北方領土は太平洋戦争が終わった後に当時のソ連に武力で奪われた日本固有の領土である。②そして今なおロシアに不法占拠されている島々である。③また、当時島を追い出された日本人が帰還を熱望しているところでもある。

つまり北方領土の返還を要求することは、日本人にとって正義の実現を追求することであり、そこには一点の誤りもないということなのである。このことを理解すれば、多くの国民が北方領土返還要求運動に積極的に参加してくれるはずである。

それでは北方領土問題に対する理解を深めるためには一体どうすればよいのだろう。私はまず学校が北方領土教育に積極的に取り組むことが大切であると考える。なぜならば、先の世論調査によれば学校教育を通じて北方領土問題を知った人は二十七％に過ぎないからである。確かに塾で別の学校に通っている友人に北方領土の話しをすると、怪訝な顔をされることが多い。

私たちの学校では、年に一度北方領土に関する学習に取り組んでいる。私はその学習を通じて北方領土問題を詳しく学び、北方領土の返還を強く求めるべきだという意識を持つようになった。このような取組を多くの学校に広げていくべきである。

北方領土の返還は、外国であるロシアとの交渉によって実現させるものである。ロシアに返還を決断させるカギとなるものは、北方領土問題に対する日本国民の深い理解と返還を求める熱い思いに他ならない。先に取り上げた世論調査程度の数値では、ロシアに足元を見透かされるだけである。これでは北方領土は返ってこない。私たちは「北方領土返還要求運動に参加したい人」の割合を増やす必要がある。それこそが返還を実現する大きな力になるからである。私の力は微力である。しかし私は多くの人に北方領土問題を繰り返し語りかけ、返還要求運動の輪を広げていこうと決意している。